

よりよい授業づくりのために



埼玉県マスコット「ロバトン」

よりよい授業づくりで大切なのは、「**指導の意図を明確にすること**」です。指導の意図を明確にするために、次の3つのステップで授業者としての考えを明確にし、授業に臨みましょう。

STEP1 道徳的価値

本時で扱う内容項目について、**特に大切にしたいこと**を、「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」を基に明確にもちましょう。

STEP2 児童生徒の実態

これまでの道徳科や各教科等の指導の中で、**道徳的価値に根差した問題**について子供たちの**よさと課題**を把握しましょう。その上で、**考えさせたいこと**を明確にしましょう。

STEP3 教材の吟味

児童生徒に**考えさせたい道徳的価値**に関わる事項が教材の中にどのように含まれているかを検討しましょう。

考えさせたいことに基づき、本時で教材をどのように活用するのか構想しましょう。

例えば・・・

内容項目 B「友情、信頼」 教材名「離れていても」
出典：彩の国の道徳「未来に生きる」（小学校 高学年）



互いに理解し、信頼し合うことで、よりよい友達関係を築いていこうとする意欲を高めたい。

各教科等の学習や日常生活で児童生徒の交友関係を観察したり、指導したりしましょう。

実態	よさ	相手の気持ちだけではなく、相手の立場も考え、友達関係を築いている様子が見られる。
	課題	SNSでつながる友達関係について不安や悩みを抱えている児童生徒もいる。

【考えさせたいこと】
友情を深めるために大切なことは何か

【教材のあらすじ】父の都合で転校することになったぼく。親友である仁にそのことを打ち明ける。ぼくは、転校してもタブレットを使って交流すれば今までと変わらず親友でいられると考えたが、仁に「離れていたら友達を続けるのは難しい」と言われた。その日の夕方、オンライン会議をしている父にオンライン上での人間関係について尋ねる。父の話から離れていても思いは伝わることに気付く。



親友と近くにいるか、遠くにいるかで友情を深めることに違いがあるかを考えさせたい。

【中心的な発問】遠く離れた場所で、笑顔の仁を思い浮かべ、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。

※ それぞれの実践例の始めのページに、この3つの授業者の捉えが明文化されています。

発問づくりのポイント



埼玉県マスコット「コバトン」

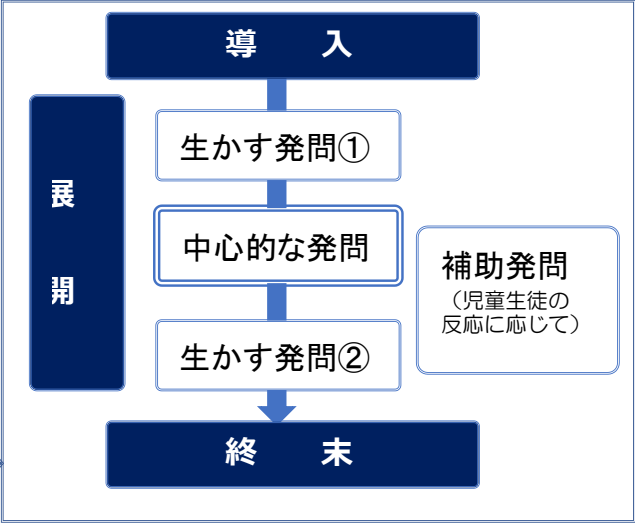
発問は、**考える必然性や切実感のある発問**、**自由な思考を促す発問**を心がけることが大切です。



埼玉県マスコット「コバトン」

発問を考える場合には、
 ①ねらいに深く関わる
「中心的な発問」を考え、
 ②その発問を生かすための
 発問をいくつか考え、
 ③**全体を一体的にとらえる
 ように構成を工夫**します。

このようなイメージ →



例えば・・・

内容項目 B「友情、信頼」 教材名「離れていても」
 出典：彩の国の道徳「未来に生きる」（小学校 高学年）

		発問の意図等
導入	あなたにとって大切な友達とは、どのような友達ですか。	本時で考えていく友情についての 問題意識 をもたせる。
展開	【生かす発問】 仁の後ろ姿を見ている時、ぼくは、どんな気持ちになったでしょうか。	本時のねらいと対立する仁の「友情は近くにいないと成立しない」という捉えを明確にする。
	【生かす発問】 父の言葉を聞いたぼくは、心の中でどんなことを思ったでしょうか。	父の言葉から「相手を信頼し、大切にすることがあれば友情は壊れない」と確信するぼくの様子を捉えさせる。
	【中心的な発問】 遠く離れた場所で、笑顔の仁を思い浮かべ、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。	離れていても友情を大切にしている二人とそれぞれが近くにいる友達ともよい関係を築いていることを考えさせる。
	【補助発問】 仁の友達に対する考えは、ぼくとの電話やオンライン作戦会議を通してどのように変わったでしょうか。	児童とのやり取りの中で、 <u>仁の気持ちの変化を問うこと</u> でねらいに迫っていく。
【生かす発問】 友情を深めていくために大切なことはどのようなことですか。	友情を深めるためには「物理的な距離ではなく、 <u>互いに信頼し合うことが大切</u> 」ということについて、これまでの自分を振り返り考えさせる。	
終末	教師の説話を聞く。	友情を深めるためには <u>相手を思う心</u> が何よりも大事であることを教師の経験から話す。

※ 実践事例から授業者がどのような意図をもって発問しているか考えてみましょう。

児童生徒の学びを評価する



埼玉県マスコット「コバトン」

次の2つの視点から、**児童生徒のよさを認め、自分自身の授業改善**につなげていきましょう。

★ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や心情を様々な視点から捉えようとしている。
- 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- 道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

例) 内容項目 B「友情、信頼」 教材名「離れていても」出典:彩の国の道徳「未来に生きる」(小学校 高学年)

評価の視点	★友情を深めるために大切なことについて、主人公「ぼく」に自我関与し、多面的・多角的に考えている。
見取りの方法	児童の発言の様子・道徳ノート
指導上の留意点	離れていても近くにいるとも友情を深める上で共通して大切なことについて児童の多様な考えを引き出していく。

★ 道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか。

- 教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりにイメージし理解しようとしている。
- 現在の自分自身をふり振り返り、自らの行動や考えを見直そうとしている。
- 自己の取り得る行動を教師や児童生徒と議論する中で、道徳的価値の理解を深めている。
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

例) 内容項目 B「友情、信頼」 教材名「離れていても」出典:彩の国の道徳「未来に生きる」(小学校 高学年)

評価の視点	★これまでの自分自身を振り返り、友情を深めるためには、信頼し合うことが大切だということについて考えている。
見取りの方法	児童の振り返りの記述
指導上の留意点	導入で「あなたにとって大切な友達とは」の問いを振り返り、本時の話し合いを通して新たに気付けたことについて記述させる。

教師

児童生徒

様々な視点から考えさせる発問が効果的だった。

自分事として捉えさせるためには、どうしたらよかったらうか。

授業力の向上

指導と評価の一体化

なぜ、〇〇が大切なのか考えが深まった。

なるほど。そんな考え方もあるんだ。

学習したことの意義や価値を実感

※ 実践事例から評価と指導在り方の具体例を見てみましょう。

教師の心構え



児童生徒と**共に考え、悩み、感動を共有し、学び合う**という姿勢を持ちましょう。

道徳科の授業は、児童生徒だけが考えるのではなく、**教師も共に考える時間**でもあります。児童生徒に教え込もうとするのではなく、教師自らが児童生徒と共に考え、悩み、感動を共有しながら、学んでいくという姿勢で授業に臨むことが大切です。

学習指導要領第3章の「第2 内容」は、教師と児童（生徒）が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共有の課題である。

第3章 道徳科の内容 第1節 内容の基本的性格 1 内容のとらえ方



児童生徒で**聞き合い、議論することができる授業**を目指しましょう。

児童生徒の考えを聞くだけでなく、話し合いの能力を高め、**児童生徒が聞き合い、議論することができるように工夫**していくことが大切です。そのためにはまず、児童生徒が**主体的に発言できる支援**が必要です。

- 教師が話しすぎないようにしましょう。



こうならないためには、**児童生徒の発言があるまで、じっくり「待つ」**ことです。

「待つ」時間が、児童生徒が自分の考えを深める時間になります。

- 一人一人の感じ方や考え方を**広げたり、深めたり**しましょう。

《教師の問い返し例》

根拠を問う	・なぜ、そう考えましたか？
具体例・反例	・具体的にいうとどうのことですか？ ・それがあてはまらないことってあると思いますか？
比較する	・〇〇と▲▲の考えは、どんな違いがあると思いますか？ ・どちらの気持ちが強いと思いますか？
視点を変える	・逆の立場で考えるとどうなるでしょうか？ ・本当にこれでいいと思いますか？ ・もし、〇〇だったら、どうしますか？
他律から自律へ	・人から褒められるから、そうするのですか？
全体の話題に	・みんなは、Aさんの考えをどう思いますか？

※ 実践事例の教師と児童生徒のやりとりに注目してみましょう。